

【生命科学部】令和6年度 FD活動の「年間報告」

1. 学部独自のFD活動についての報告（＊は必須項目）

(1) 公開授業・ワークショップ

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

①公開授業：

- ・科目：代謝生物化学
- ・担当教員：遠藤斗志也客員教授
- ・実施日時/場所：令和6年5月17日（金）1限，天地館3階T303教室
- ・*参加人数：20名（教員19名、職員1名）

②ワークショップ：

- ・実施日時/場所：令和6年5月17日（金）3限，15号館1階15102セミナー室
- ・*参加人数：14名（教員14名）

・ワークショップでの意見交換内容：

「代謝生物化学」での講義の進め方、学部基盤4科目の成績分布、今後の基盤科目のありかた、などについて、議論を行った。

(2) その他研修会等

※(1)以外の学部FDとして実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

- ・テーマ：研究室の適正な安全環境の確保
- ・概要：事故例の共有、事故を防ぐ対応、環境・体制の課題をディスカッション
- ・実施日：令和6年10月30日（水）
- ・*参加人数 28名（教員28名）

2. 総括（今年度の学部FDを通して得られた気づきや見つかった課題等）

学部共通開講となった学部基盤科目の「物質生物化学」「代謝生物化学」「分子生物学」「細胞生物学」について、両学科の受講生の特徴を把握し、今後の基盤科目運営の参考にすることを目的とし、公開授業として基盤科目のひとつである「代謝生物化学」を選定した。また、ワークショップでは、基盤科目4科目の成績分布をもとに、今後の基盤科目のありかたをディスカッションした。ここでの議論を通じて、両学科の特徴を理解しつつ、講義内容、大学院試験問題の作成に取り組むことが大切であることを、参加者が改めて認識できた。

3. 次年度に向けての取り組み

学部基盤科目の運営改善に継続的に取り組むことを目的として、次年度も令和6年度の学部FDの取り組みを継承する。そこで、基盤科目のひとつである「分子生物学」を次年度の公開授業科目に選定し、ワークショップでの議論の進め方や今後のFD活動について、学科教務担当を交えて意見を交換した。また、今後の基盤科目のありかたや演習・展開科目との連携、大学院入試への対応について議論するため、学部基盤4科目の成績分布を令和6年度についても継続的に調査した。

※この内容は当該年度終了後、本学におけるFD活動の一環として、本学HPに掲載します。